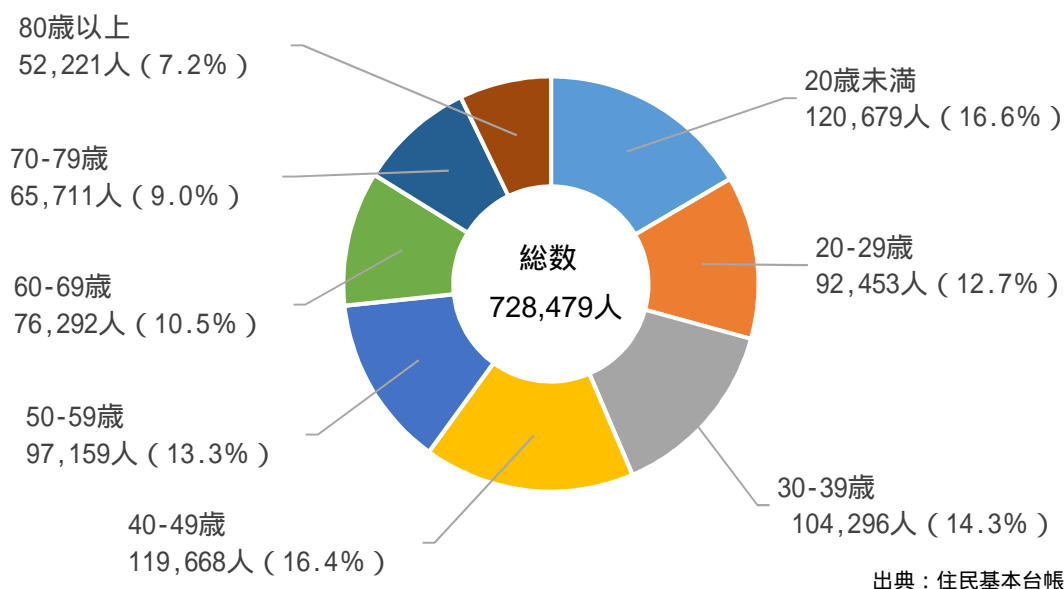


## 第2章 練馬区の自殺の現状と特徴

### 1 練馬区における自殺の現状

#### (1) 練馬区の人口構成

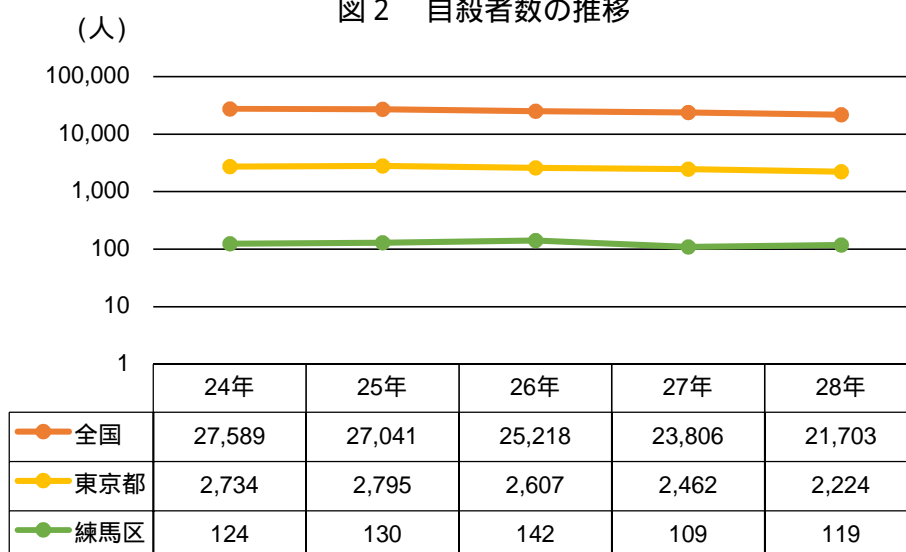
図1 練馬区の人口構成（平成30年1月1日）



#### (2) 自殺者数の推移

全国と東京都の自殺者数は減少傾向にある一方で、練馬区の自殺者数は100人以上で推移し、平成24年～28年までの平均は124.8人となっています。

図2 自殺者数の推移

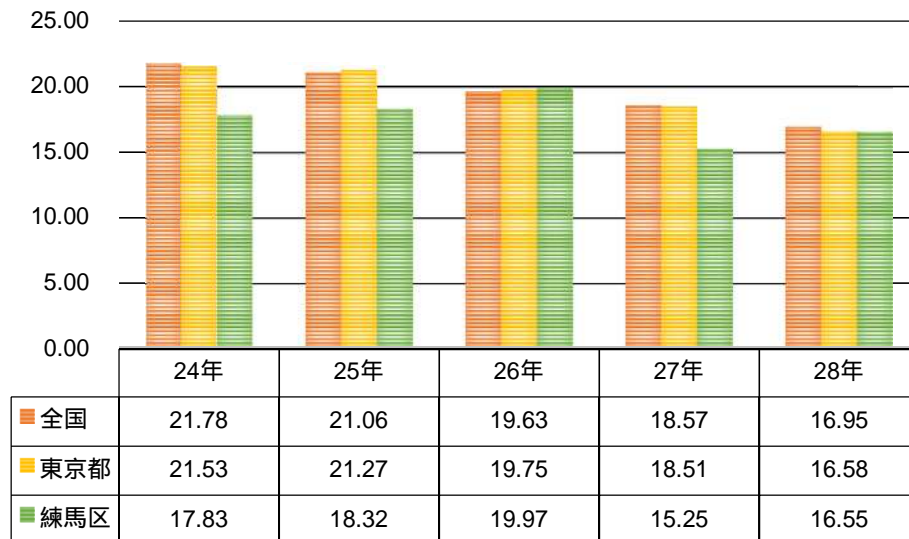


出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

### (3) 自殺死亡率

全国や東京都と比較すると、平成 26 年を除き練馬区の自殺死亡率は低くなっています。

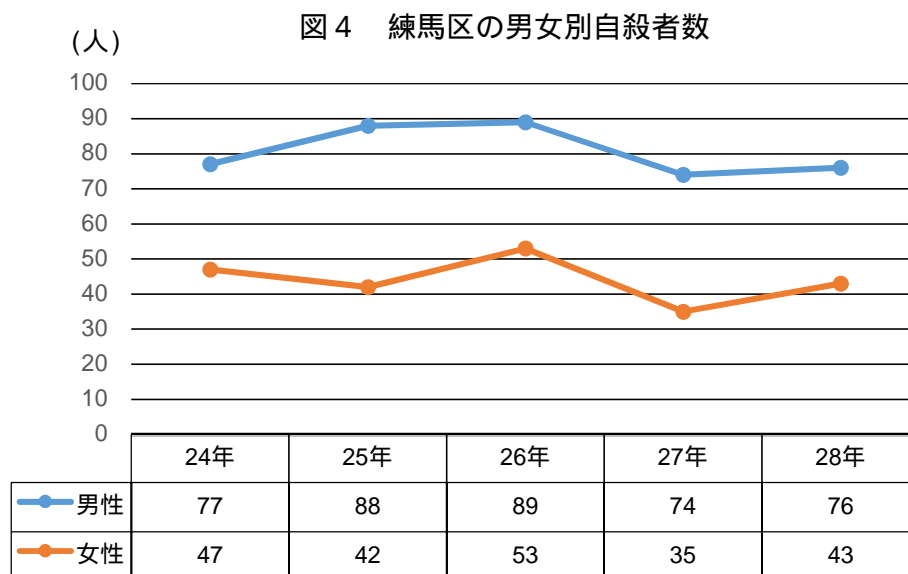
図 3 自殺死亡率の推移



自殺死亡率：人口 10 万人あたりの自殺者数 出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

### (4) 男女別自殺者数

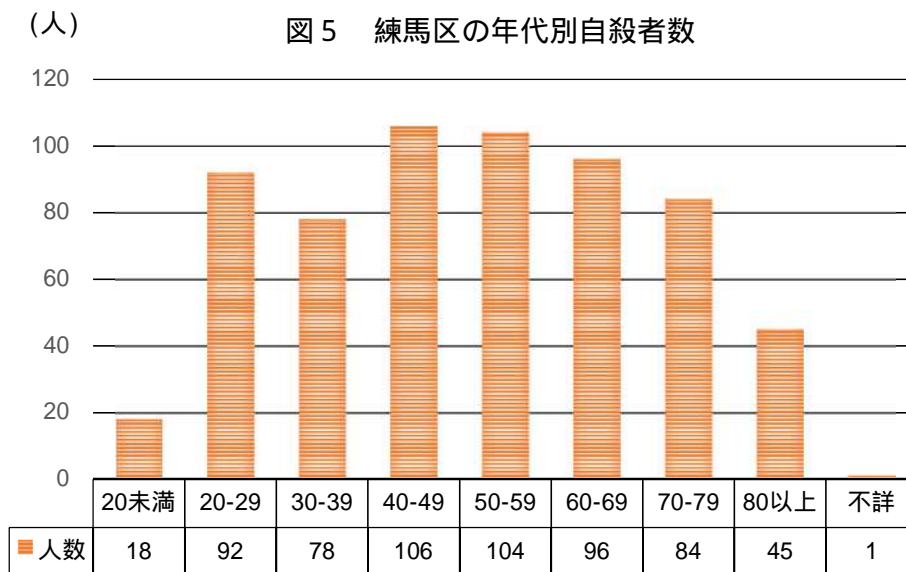
男女の自殺者数を比較すると、男性が女性の約 2 倍になっています。



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(5) 年代別自殺者数（平成 24 年～28 年の合計）

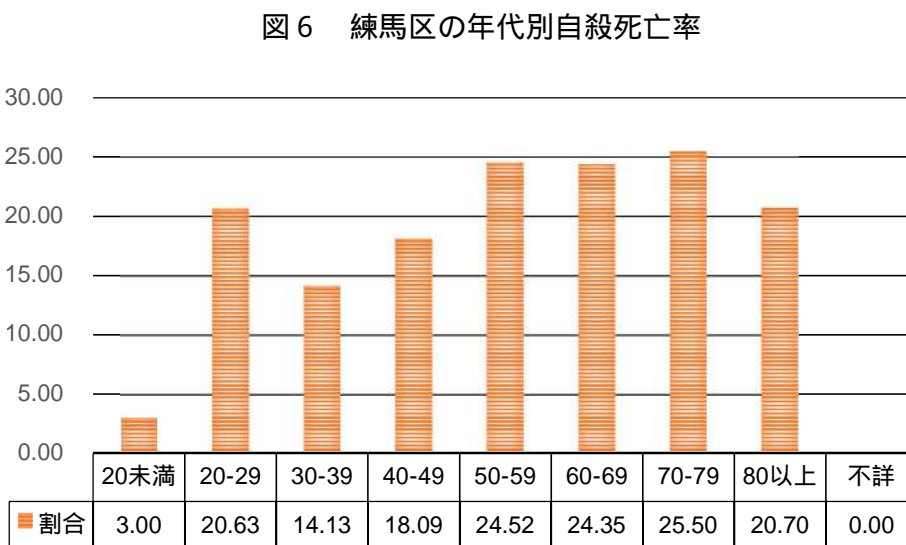
平成 24 年～28 年までの 5 年間で、40 代が 106 人、50 代が 104 人、60 代が 96 人、次いで 20 代が 92 人となっています。



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(6) 年代別自殺死亡率（平成 24 年～28 年の合計）

年代別の自殺死亡率は、50 歳代から 70 歳代で高く、次いで 20 歳代で高くなっています。20 歳未満および 20 代の自殺死亡率は、国の統計によると全国の上位 20～40%に位置しています。



年代別自殺死亡率：年代別の人口 10 万人あたりの自殺者数

出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(7) 年齢階級別死因（平成 28 年）

20 歳未満、20 代および 30 代における死因の第一位が自殺です。

表 1 練馬区の年齢階級別死因

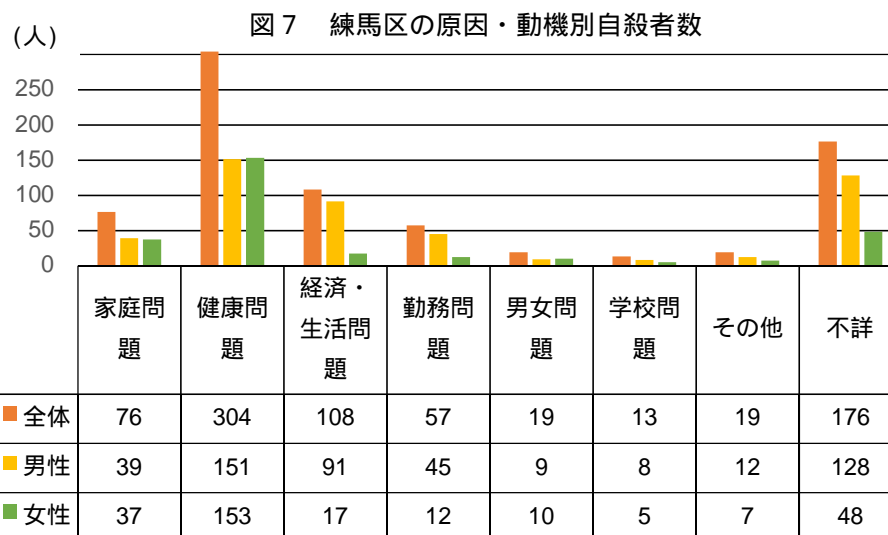
年 代	第一位	第二位	第三位
20 歳未満	自殺	心疾患	悪性新生物 不慮の事故
20-29	自殺	悪性新生物	
30-39	自殺	悪性新生物	心疾患
40-49	悪性新生物	心疾患	自殺
50-59	悪性新生物	心疾患	自殺
60-69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70-79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
80～89	悪性新生物	心疾患	肺炎

出典：厚生労働省「人口動態統計」

(8) 原因・動機別自殺者数（平成 24 年～28 年の合計）

男女ともに健康問題（心の問題を含む）が最も多くなっています。

男性では、女性に比べて経済・生活問題を理由としたものが多くなっています。



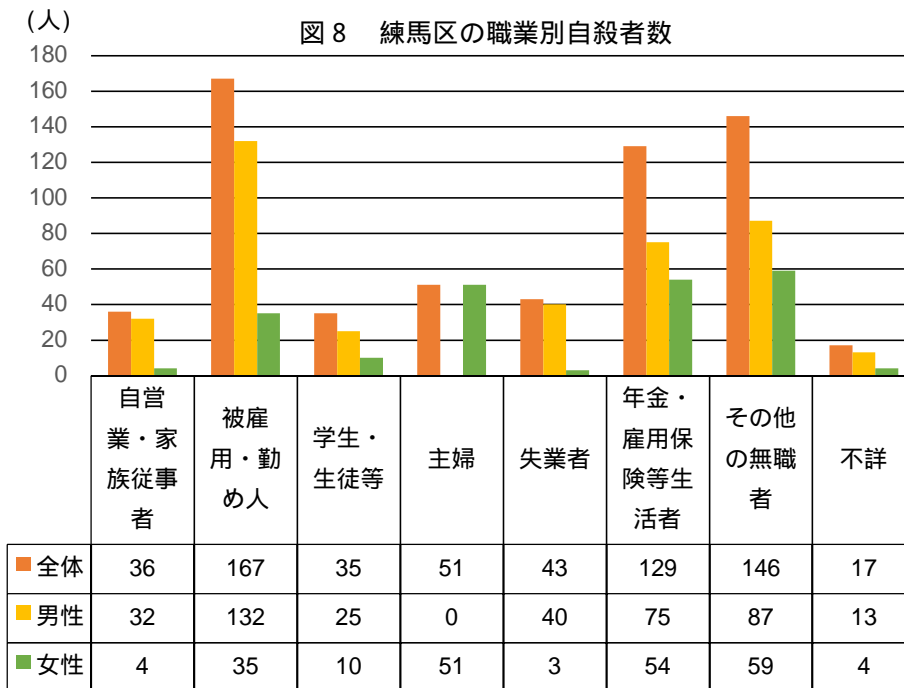
遺族等から得た自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を 3 つまで計上している。

出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(9) 職業別自殺者数（平成 24 年～28 年の合計）

職業別自殺者数は、「被雇用・勤め人」が多く、次いで「その他の無職者」が続いています。

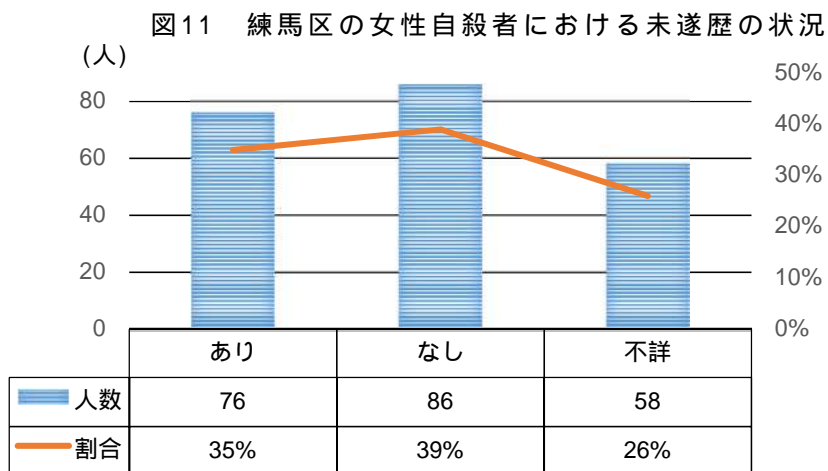
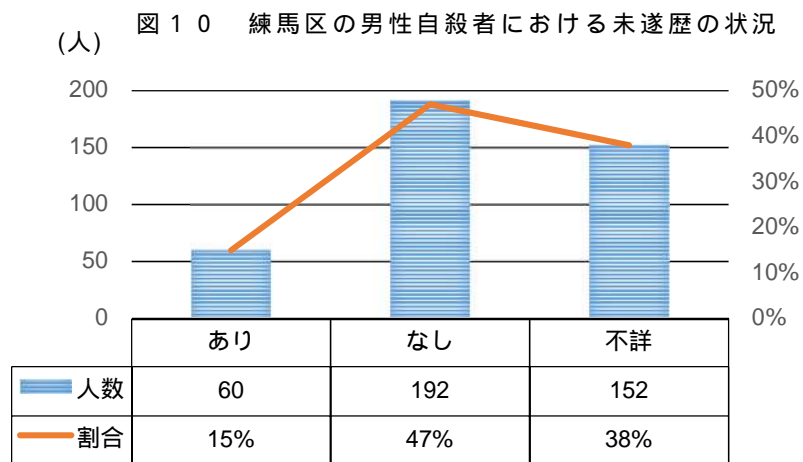
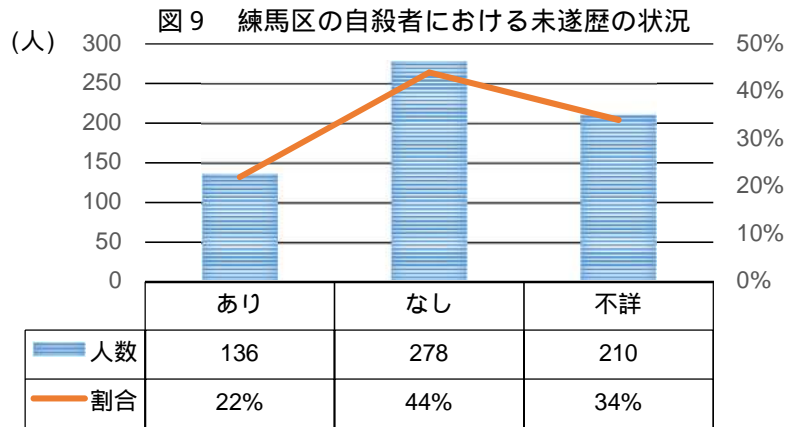
その他の無職者：主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者以外のすべての無職者



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(10) 未遂歴の状況（平成24年～28年の合計）

自殺者数全体のうち自殺未遂歴のある人の割合は、22%となっています。  
男女別の未遂歴では、男性より女性のほうが人数・割合ともに多くなっています。



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(11) 自殺者数の多い集団

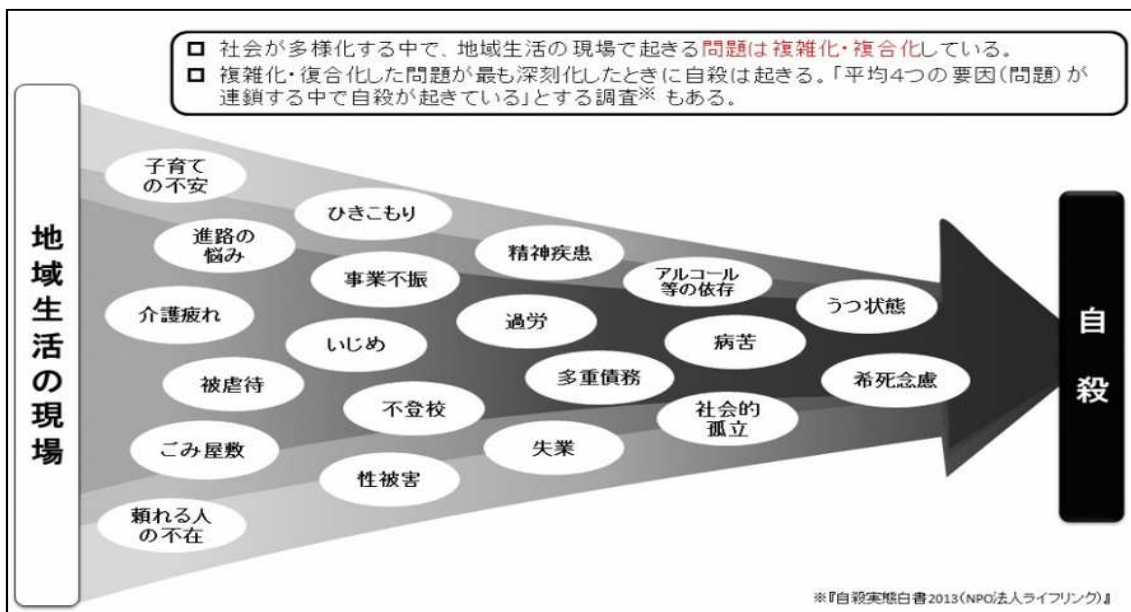
自殺総合対策推進センター が練馬区の自殺の実態を分析した、「地域自殺実態プロファイル」による5年間(平成24年~28年)の自殺者数の多い集団の特徴は以下の通りです。

自殺総合対策推進センターは、平成28年4月1日に施行された改正自殺対策基本法の新しい理念と趣旨に基づき、エビデンスの提供および地域の自殺対策を支援するために発足しました。

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位:男性 60歳以上無職同居	65	10.4%	32.9	失業(退職) 生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患 自殺
2位:女性 40~59歳無職同居	46	7.4%	17.8	近隣関係の悩み+家族間の不和 うつ病 自殺
3位:男性 60歳以上無職独居	45	7.2%	92.3	失業(退職)+死別・離別 うつ状態 将来生活への悲観 自殺
4位:男性 40~59歳有職同居	45	7.2%	11.6	配置転換 過労 職場の人間関係の悩み+仕事の失敗 うつ状態 自殺
5位:女性 60歳以上無職同居	44	7.1%	13.1	身体疾患 病苦 うつ状態 自殺

背景にある主な自殺の危機経路とは、NPO法人ライフリンクが行った500人以上の自殺で亡くなった方についての実態調査から、自殺は、平均すると4つの要因が連鎖して引き起こされており、それらの要因の連鎖のプロセス(自殺の危機経路という)は、性、年代、職業等の属性によって特徴が異なることが明らかになりました。(詳細は「自殺実態白書2013」(NPO法人ライフリンク))

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル【2017】東京都練馬区」



## 2 練馬区における自殺の特徴

これまで示したデータをまとめると、練馬区における自殺の特徴は以下のとおりです。

### (1) 性別

平成 24～28 年までの男女比平均は 1.83 : 1 と男性の方が女性の 2 倍近くになっています。

### (2) 年代別

平成 24～28 年までの 5 年間で 40 代が 106 人、50 代が 104 人と高く、続いて 60 代が 96 人、20 代が 92 人となっています。

自殺割合で見ると、高齢世代が高い傾向にあります。

20 歳未満、20 歳代では死因の第 1 位が自殺であり、自殺死亡率は国の自殺統計によると全国の上位 20～40% に位置しています。

### (3) 原因・動機別

男女とも健康問題が最も多く、経済・生活問題が続いています。

### (4) 自殺未遂歴の有無

自殺者全体のうち自殺未遂歴のある人は 22% です。女性においては、自殺者のうち、自殺未遂歴のある人は 35% で男性に比べ割合が高くなっています。

### (5) 自殺者数の多い集団

男性 60 歳以上、無職、同居者ありが約 1 割で、最も多くなっています。

## 3 これまでの練馬区の自殺対策の取組

自殺対策基本法の制定を契機として、「普及啓発、人材育成、相談事業」を柱に、事業に取り組んできました。

### (1) 普及啓発事業（平成 29 年度）

#### 自殺防止キャンペーン

#### ア 平成 29 年 9 月

西武池袋線練馬駅構内で啓発グッズ配布

#### イ 平成 30 年 3 月

- ・ 区役所アトリウムでパネル展示、リーフレット等配布
- ・ 区立図書館で自殺関連図書の展示、リーフレット等配布
- ・ 区立施設でポスター掲示
- ・ 公設掲示板でポスター掲示



## うつ講演会

ア 平成 29 年 9 月

- ・テ ー マ： うつの理解と最新治療
- ・受講者数： 23 人

イ 平成 29 年 11 月

- ・テ ー マ： うつ病の基礎知識と回復のポイント
- ・受講者数： 21 人

(2) 人材育成事業（平成 19 年度～29 年度）

### ゲートキーパー養成講座

- ・区民： 延べ 987 人
- ・民生児童委員： 延べ 249 人
- ・医療・保健・福祉関係： 延べ 338 人
- ・職域関係： 延べ 328 人
- ・区職員： 延べ 407 人

### ゲートキーパーフォローアップ講座

- ・受講者数： 延べ 281 人

(3) 相談事業（平成 29 年度）

### こころの相談（うつ相談）

開催回数：18 回、 相談人数：延べ 46 人

### 精神保健相談

開催回数：100 回、 相談人数：延べ 231 人